森の幼稚園へようこそ
港区立白金台幼稚園

10月園だより

平成29年9月28日
園長 新井智子

〒108－0071
港区白金台3－7－1
（3443）5666

http://shirokanedai-kg.minato-tky.ed.jp/

園庭で遊ぶ子どもたち

努力は夢中に勝てない

園長　新井智子

スポーツの秋になりました。園庭では、走ったり踊ったりと、体を思い切り動かして遊ぶ子どもたちの元気な姿が毎日見られます。

さて、少し前の話です。家の近くの公園でサッカーをして遊んでいる親子を見かけた時のことです。幼稚園の年中児くらいの男の子が父親に向けてボールを蹴っていました。男の子は楽しそうに戦隊ヒーローになりきってボールを蹴っていました。私はとても微笑ましく見ていました。しかし、私の思いとは異なり、相手をしていた父親は、「ふざけない！真面目にやらないとやめるぞ」と注意をし、蹴り方や足の運び方を細かく指導していました。男の子は、「はーい」と返事をしましたが、また、何かになりきって「ヤー！」と蹴ったので父親の堪忍袋の緒が切れて「ふざけるのもいい加減にしろ！」と叱られてしまいました。

同じようにもう一組の親子がいました。ソフトボールを使ってキャッチボールで遊んでいました。父親が「これは捕れるか」と言って投げたり、転がしたりしています。男の子は、両手で受け取ったり、足で押さえたりしながら、父親とのやり取りを楽しんでいます。時々父親は投げるタイミングを外し、フェイントをかけます。男の子は、父親の手の動きをじっと見て、捕ることに集中し、「捕った！」と声を上げて喜んだり、自分で考えた捕り方を披露しては、父親に「面白いこと考えたな」と笑われたりしています。会話のキャッチボールも面白がりながら、巧みにからだを動かし、遊んでいます。

サッカーの父親の子どもへの熱血指導ぶりは、愛情であり否定はしません。しかし、幼児期はサッカー競技としてのスポーツを教えるのではなく、ぜひ「遊び」として子どもと向かい合うことをお勧めします。遊びの面白さ、楽しさがあってこそ、繰り返し、遊びこみます。時間を忘れ、疲れ知らずに熱中できる遊び、その遊びを通して、自然に体力やからだの巧みさが身についていくのです。そして、生涯スポーツの基盤として運動への意欲や態度が培われていきます。

子どもたちの運動技能の獲得を表す言葉があります。それは「努力は夢中に勝てない」というものです。かつてオリンピック選手が用いたことでも有名になりました。夢中になって無心になって遊ぶこと、子どもがやりたいと思い、遊びたい思いを満喫し、思い切りからだを動かすことが幼児期の運動遊びだと思います。

運動会は、心情面や協同性の育ちなども備えながら、運動の喜びや体力増進のいい機会になります。楽しくたくましく、日々活動を進めてまいります。

＜今月の指導のねらい＞

３歳児

○自分の思いを教師や友達に言葉や動きで伝えながら、好きな遊びを楽しむ。
○教師や友達と一緒に、かけっこやダンスなどをして体を動かすことを楽しむ。

４歳児

○運動会に向けての活動に興味をもち、友達と一緒に参加したり、自分から取り組んだりして楽しむ。
○思い切り走ったり、いろいろな動きをしたりして、体を動かして遊ぶ心地よさを味わう。
○秋の自然に触れ、木の実や葉を集めたり、遊びに取り入れたりして楽しむ。

５歳児

○学級や学年の友達と共通の目的に向かって取り組み、自分の力を発揮することを楽しむ。
○運動会に向けて、園全体や学年ですることが分かり、みんなで一緒にやり遂げた達成感を味わう。
○季節の移り変わりに気付き、感じたことや気付いたことを伝え合ったり、自分たちの遊びに取り入れたりする。